

# 「～きる」とそれに対応する韓国語の表現

呉 美 善

## 1 はじめに

日本語の表現における動詞の役割は非常に大きい。種々の格助詞と共に、その動詞の表す意味を具体化させ、いろいろな文型を形成する。日本語の語彙の中では、延べ語数の面から分析すると漢語より和語の比率が高く、和語のほうが使用頻度数が高いことがわかるが、いわゆる動詞のほとんどは和語である。当然、外国人として日本語を習得する時も動詞は重視されるようになる。初級の早い段階から動詞構文は現れるし、使用頻度数も高い。森田（1978）によれば、早稲田大学語学教育研究所の『外国学生用日本語教科書・初級』で扱われる全語彙中、動詞は20%を占めるという。この動詞のほとんどは、「する、いる、ある、来る、行く……」といった単純語で、複合動詞の形態は少ない。もちろん、初期の段階では基本的な単純動詞を覚えさせたり、用法の例を見せたりすることが先になされなければならない。しかし、そのまま終われば辞書に載っていない複合動詞などは理解できなくなってしまう。現に、外国語として日本語を学習する場合、初・中級のテキストによって与えられる動詞のほとんどは単純語の形態で、複合語の形態の意味・用法まではなかなか手がまわらない実状である。複合語になると、単純語の原義で類推できないものも多くなり、前・後項の動詞がすでに習ったものであっても、それらがそのまま複合した時の意味になるとは限らない。このような事情で、少し進んだ程度の段階になったら体系的な複合動詞の使い方をまとめて教える必要がある。そのためには、日本語の複合動詞を形態・意味の両面からまとめなければならない。特に、その中でも頻度数の高いものや、原義から類推できないものを選び出し、学習効果の高い方法で教えていくことが望まれる。これは生産性という面からみても応用力を身につけさせ

るのに役に立つ方法になると思われる。

以上のような意味から複合動詞をまとめていくと、広い範囲で前項動詞をとり、造語力に富んでいる後項動詞の役割が浮き彫りになる。これらの後項動詞は原義を失ったものも多く、その用法において自立した動詞とは思えなくなり、学者によっては「助動詞」「補助動詞」「接尾語」とも呼ばれるが、その数は限られ、大体40種くらいあるといわれる。日本語教育では、使用頻度数も高く、原義からの類推も難しいこれらの後項動詞を集中的に教えることが必要だと思われる。本稿ではその中から「～きる」の意味・用法を分析してみる。なお、分析の際にはそれぞれ対応する韓国語の表現とのかかわりにもふれることにする。

## 2 「～きる」の意味分析

複合語の形を分析する際、その構成の材料になる単純語の原義はそのまま残されたり、意味が広がったりして類推の手がかりになることが多く、またその複合語の用法をも決めるものであるため基本作業として調べる必要があるとされる。

辞書の語釈を中心にまとめると、「きる」の原義として大体次の二つの基本的な意味が出てくる。

- a. ナイフなどで、物をいくつかの部分に分けたり、きずつけたりする。

一枚の紙をはさみで二枚に切った。

チーズやハムはあまりうすく切ったらおいしくない。

- b. 関係をなくする。

「さよなら」と言って電話を切った。

親子の縁は切ることができないほどふかい。

(『外国人のための基本語用例辞典』第3版、1990、文化庁)

aの意味は普通「切断」と言われるもので、bの「関係をなくする」とは、「②続けていたことや、続けていたことをやめて、そこで終わりにする」(『例解新国語辞典』第4版、1995、三省堂)ということにある。つまり、

aは「物理的な切断」、bは「抽象的あるいは心理的な切断」といえるもので、「切る」の原義は「切断」ということばで代表される。

「きる」は森田（1977-a）の下接部に立つことの多い動詞ベスト25の調査の中の9位にあがっているなど、他の動詞に後接して複合動詞化することの多いものである。他の動詞に後接して複合動詞化した「～きる」は「切断」という原義を持つ内容語から補助動詞、助詞、接頭辞、接尾辞のような機能語へ変化していく傾向、言い換えれば独立した単語としての語彙的意味を持つ表現として用いられていたものが次第に付随して用いられる接辞的な表現に変化していくいわゆる山梨（1995）の「文文化」の傾向が見られるのである。「～きる」は用例分析した結果、①単独で用いられるときの「切断」という原義をそのまま後項要素がもっているものと、②「完全に～する」のように動作・作用の完了を表すものと、③「完全に～した状態になる」、「ひどく～する」のように極度の状態を表すものの三つに分類（以下、「切断」「完了」「極度」という用語を使う）する事ができたが、この分類の中の「完了」、「極度」は機能語への変化を表すものである。武部（1953）は「補助動詞的要素」、金田一（1949）は「補助動詞」、佐久間（1966）は「準助動詞」、林（1944）は「補助用言」、時枝（1950）と菅野（1964）は「接尾語」、等の範疇に入れている「～きる」の意味は、この機能語への変化を取り扱ったものである。以下、それぞれのグループに属する「～きる」とそれに対応する韓国語の例をあげ、その意味・用法および語や文の構成的特徴について考えてみたい。分析の資料は、対応する韓国語とのかかわりをも分析するために「다락원」の日韓対訳文庫1～16と「日文小説カセットブック」a～cを用いた。これらにより、該当する複合動詞の日本語文の例文を引用し、対応する韓国語文を対照させて考察していく。必要に応じて、辞書からとった例文も参考にした。なお、（1-66）と記すのは、分析の資料1「伊豆の踊り子」の66ページからとった例文であることを示す。

\*日韓対訳文庫

- 1 川端康成 「伊豆の踊り子」
- 2 芥川竜之介 「羅生門」

- 3 壺井栄 「港の少女」 (他)
- 4 西本鶏介編 「日本漫談選」
- 5 星新一 (他) 「重要な部分」 (他)
- 6 佐藤春夫編 「日本民談選」
- 7 小川未明 (他) 「小学校教科書選」
- 8 阿刀田高 「待っている男」 (他)
- 9 大岡昇平 (他) 「動物」 (他)
- 10 三島由紀夫 「熱帯樹」
- 11 立原正秋 (他) 「日本の名随筆」
- 12 三浦綾子 「北国日記」
- 13 遠藤周作 「ユーモア傑作選」
- 14 高木彬光 「失われた過去」
- 15 川端康成 「雪国」 (上)
- 16 川端康成 「雪国」 (下)

\* 日文小説カセットブック

- a 三島由紀夫 「潮騒」
- b 川端康成 「伊豆の踊り子」
- c E. ヘミングウェイ 「老人と海」

## 2-1 「切断」

「切断」の「～きる」には、切断という物理的な変化が実際に起こるものと、起こらないものがある。まず、実際に切断が起こるものとして(1)(2)がある。

- (1) だがこうなったら、お前のくちばしをたたき切って、そいつでサメと戦えるようにすればよかった。(c-179)

(그러나, 이럴줄 알았으면 네 주둥이를 두들겨 잘라내서 그 놈으로 상어와 싸울 수 있게 되었으면 좋으련만)

(2) 老人は暗闇の中でナイフを取り出し、滑り落ちる網を船縁に押し付けて断ち切った。(c-81)

(노인은 어둠 속에서 칼을 꺼내어 미끌어져 내려가는 줄을 배전에 대고 끊었다)

「刃物などで物を断ち分ける」(『学研国語大辞典』第2版、1996、学習研究社、以下『学研』と略記する)という「きる」の原義をそのまま持っている「～きる」である。客体には切断という物理的な変化が可能である物が用いられ、「～きる」の前項動詞はその切断の方法や様相を表す。このような意味を持っている「～きる」は、「たたいて切る」のように「～して切る」に言い換えられる。また、単独で用いられるときと同じように、切断する手段・道具は助詞「で」で示される。森田(1977-b)は「CをFデきる」のCは物、Fは道具を示すを述べている。他に「前歯でかみ切る」などがある。

韓国語の方も物理的な切断が起こる場合は、「두들겨 자르다」のように「切る」に対応する「자르다」が後項動詞に用いられ、前項動詞はその切断の方法を表す。ただし、前項動詞が「断つ」のように切断の意味を表すものであれば、前項と後項の動詞に意味の共存関係が見られ、「断ち切る」全体が前項動詞「断つ」の訳だけになり、「끊다」になる。

次に、実際に切断が起こらない(3)(4)がある。

(3) 絶対に間違いなしと言い切る。(『民衆옛센스日韓辞典』改訂版、1994、民衆書林、以下(民衆)と略記する)

(절대로 틀림이 없다고 잘라 말하다)

(4) 僕らは輪廻の車をどうにか割り切ろうとして、……。 (11-154)

(우리들은 윤회의 수레를 어떻게든 잘라 걸러지으려고)

この場合の「～きる」も「たたき切る」のように原義の「切断」という意味を表すが、実際に「切断」という動作が行われるのではなく、「切るよう

に～する」という意味で、それ以上は要らないという、かなり自信のある強い言い方である。この「～きる」の対象としては、「ことば」「思い」などのような抽象的な事柄が用いられる。また、「きっぱり」「はっきり」のような副詞と共起し、意味を強める場合が多い。

これらの場合、韓国語の方は「잘라 ～하다(切って～する)」の形になるが、「딱(きっぱり)」が伴われ「딱 잘라 ～하다」になることもある。「잘라～하다(切って～する)」という形よりは「딱(きっぱり)」、「분명하게(はっきり)」、「힘껏, 있는 힘을 다해(力を尽くして)」などの副詞(句)と共起したり、あるいは副詞(句)化したり、複合語全体が一つの動詞になったりすることが多いが、これは「切断」の原義が薄れたことを表すもので、同じような現象は日本語にもあり、(5)の「思い切り」はその例である。

(5) 棍棒をできるだけ高く振り上げ、思い切り強く打ち下ろしたのだ。

(c-175)

(몽둥이를 될 수 있는대로 높이 치켜 들어 있는 힘을 다해  
세계 내리친 것이다)

## 2-2 「完了」

「完了」の意味を表すものには次のようなものがある。

(6) 登り切ったところで、思わず倒れた。(c-189)

(다 올라간 곳에서 그만 쓰러졌다)

(7) 一編を全部読み切らず、胸がときどきするところで、次はまた明日と、明日の楽しみが残されました。(11-96)

(한편을 전부 끝까지 읽지 않고 가슴이 두근거리는 곳에서,  
다음은 내일 또, 하시며 내일의 즐거움을 남기셨습니다)

人間（または有情物）が主体となって、ある動作を終わりまで行うことを意味する。つまり、意志的行為を表すものである。「きる」には、連続しているものを断ち分けるという分離意識が、区切りの行動となって現れ、それが結果としてどこまでも続き広がっていく行為や事柄にけりを付け、打ち切る終結行為を表す意味がある。その意味がこの「～きる」にも現れている。しかし、これは「読み終わる」「泣きやむ」の「～終わる」「～やむ」の表すような単なる終了ではなく、主体が思っている基準のところまでの終了である。姫野（1980）は、この「きる」は「行為の単なる終了を表すものではなく行為者の予定どおり（量・質ともに）完全に行われることを表わしている」と述べている。基準のところに達してあとに残りはないというニュアンスを帯びている。前項動詞は、「開始－継続－終了」という時間的経過のあいわゆる「継続動詞」で、藤井（1976）のいう「結果動詞」でもある。

韓国語の場合、「完了」の「～きる」は後項動詞の形では現れない。「登り切る」は「다 올라가다」、「読み切る」は「끝까지 읽다」のように、「～きる」が「다(すっかり、残らず)」、「끝까지(終わりまで)」のような副詞になり、前項動詞を修飾する。

### 2-3 「極度」

「極度」の「～きる」は、動作・作用よりはそれがどんな状態であるかを表すものの一つで、前項動詞によりその意味を分けることができる。

まず、「十分に～する」という意味がある。

(8) そんなことは分かりきったことだ。(『東亜プライム日韓辞典』卓上版、1996、東亜出版社、以下(東亜)と略記する)

(그런 것은 자명하 일이다)

(9) 切れ目のない細かな震動と、ときどきやって来るゆっくりとした揺れの中で、私は満足し切っていた。(5-16)

(꿈임없이 이어지는 미미한 진동과 때때로 다가오는 느릿한 흔들림 속에서 나는 완전히 만족해 하고 있었다)

「分かりきる／満足しきる」は、「説明が要らないほど十分に分かっている／満足している」という意味で、「明らかだ」というニュアンスを帯びている。また、前項動詞としては「瞬間動詞」で、高橋(1993)でいう「変化動詞」が用いられる。

次に、「完全に～した状態になる」という意味を表す場合がある。

(10) 同じ北海道でも乾き切った炎天の旭川とは大変なちがいがい。

(12-158)

(같은 홋카이도라도 몹시 건조한 여름의 아사히카와는 엄청난 차이)

(11) しかし、網はまたもやぴんと張り切り、今にもちぎれそうになる。

(c-89)

(그러나 줄은 다시 팽팽하게 당겨져서 금방이라도 터질 것만 같다)

「完了」の意味を表す「～きる」のようにある基準まで完全に行われたことを表し、ある極限まで達し、それ以上進むことができない状態を示す。例えば、「乾き切る」は、それ以上乾くことができないほど乾き、もう水分は残っていないという状態であり、「張り切る」は「～きる」で主体の状態変化の究極を表している。

次に、「ひどく～する」という意味になる場合もある。

(12) 強行軍で疲れ切った。(東亜)

(강행군으로 지쳐 버렸다)

(13) よわりきる。(民衆)

(지쳐버리다, 아주 나감해하다)

この場合の「～きる」は人間の心理的・生理的現象を表す表現によく使われるが、その現象がひどい状態であることを表す。これらの前項動詞は結果動詞でほとんどが変化動詞であり、主体の変化が極度に達していることを表している。

韓国語の場合、「極度」の「～きる」は「完了」と同じく修飾語句化する。「十分に～する」は「완전히(完全に)」、「完全に～した状態になっている」は「몹시(非常に)」、「ひどく～する」は「아주(大変)」などの副詞になっている。これらの表現はある極限まで達している状態を表すもので、次のようにもうそれ以上進むことはできないということを表すものが伴われたりする。

(14) 今、老人の頭は澄み切っていた。(c-151)

(지금 노인의 머리 속은 속속들이 맑아 있었다)

「澄み切る」は「속속들이 맑다」になっているが、ここで「～きる」は「何もかも、何から何まで、奥の奥まで」という意味の「속속들이」に当たり、それ以上「澄む」という状態は進むことができないことを表している。また、(12) (13)の例のようにある現象がひどい状態であることを表す場合があるが、前項動詞はそれ自体よくないことを表している無意志動詞が多い。

(15) そして、みんな、いかにもおびえきった声でもって、おびたたく鳴きたてながら、バタ、バタ、バタ、バタと、たがいに入りみだれて飛びました。(7-78)

(그리고 모두가 겉에 질린 소리로 부산하게 울어대면서 푸득, 푸득, 푸득, 푸득, 서로 뒤섞여 날았습니다)

一般的に「おびえる」は「겁나다」に訳されるが、「おびえきる」は「겁에 질리다」になっている。「질리다」は「呆気にとられる、あきれ果てる、呆然とする」という意味を表す動詞で、「겁에 질리다」はおびえて呆気にとられた非常におびえた状態を表す表現である。

## 2-4 その他

「切断」「完了」「極度」とは違う意味・用法を持っていると思われる例がある。

まず、その例の一つとして「息せききる」をあげることができる。

(16) 息せき切ってかけてきた。(民衆)

(숨을 헐레벌떡거리며 달려왔다)

「息せききる」は『学研』に「多く『息せき切って』の形で使う」と記されている。また、意味面でも「①息づかいを激しくする、②息づかいを荒くして非常に急ぐ」(『学研』)というように、「息」「急ぐ」「きる」の三つの構成要素の中で「急ぐ」に意味の重点が置かれているように思われる。「息が急ぐ」はあるが、「息をきる」という表現は「死ぬ」(『学研』)という全然違う意味を表すことからそれがうかがえる。

一方、韓国語で「息せき切る」を訳すると、「숨을 헐레벌떡거리다(息づかいを激しくする)」になるが、これは息を弾ませてあえぐ様を表す表現で、「숨을 헐떡거리다」は「荒々しく息をする、あえぐ」という意味はあるが、「息づかいを荒くして非常に急ぐ」という「急ぐ」のニュアンスはどこにも含まれていない。

次に、「はりきる」の例が考えられる。

(17) 皆はりきっている。(民衆)

(모두 기운이 넘쳐 있다)

(18) 張り切った気持ちがゆるむ。(民衆)

(긴장되었던 마음이 풀리다)

この場合の「はりきる」は「②元氣・意欲がみなぎる、③気持ちをひきしめる」(『学研』)の意味で、(11)「ぴんと張り切る」のような「張る」の「極度」の意味はなく、複合して別の新たな意味になる例である。

韓国語の方も、(11)の「極度」の「張り切る」は「張る(당기다)」の訳が入る「팽팽하게 당겨지다」になっているが、(17)の方は「기운이 넘치다(元気がみなぎる)」、(18)は「긴장되다(緊張する)」になっている。

### 3 「～きれる」について

#### 3-1 自動詞形「～きれる」

(19) ズボンのすそが擦りきれる。(東亜)

(바짓부리가 닳아서 헤어지다)

この場合の「～きれる」は、切断されている状態を表す「～きる」に対応する自動詞形である。前項動詞は切断がどのようにして行われるかを意味する。この「すり切れる」は「こすれてきれる」の意味である。

#### 3-2 可能動詞形「～きれる」

(20) 俺とお母さんの固い絆がどうにも断ち切れないと見ていると、……

(10-108)

(나와 어머니의 굳은 유대를 아무리 해도 끊을 수 없다는  
걸 알아채자)

この場合の「断ち切れる」は「断ち切る」の可能動詞形で、「切るように～する」の「～きる」と同じように、対象としては抽象的な事柄が用いられる。

「切る」に対応する韓国語は「자르다, 끊다」で、自動詞「きれる」に対

応する韓国語は「잘라지다, 끊어지다, 헤어지다」である。それで、(19)の例のような切断された状態を表す「すりきれる」は「～끊어지다」が用いられ、「뿔아서 끊어지다/ 헤어지다」になる。これに対し、「断ち切る」の可能動詞形「断ち切れる」のような切断の可能性は「～끊어지다」では表すことができず、「～きる」の可能の表現である「断ち切ることができる」という意味の「끊을 수 있다」か、その不可能の表現である「끊을 수 없다 (断ち切ることができない)」で表す。

可能動詞形「～きれる」は「切断」の可能の他に「完了」の可能も表す。

(21) どんなに抑えようとしても抑えきれない。 (8-34)

主体が思ったある基準を全部行うことができたという意味を表す「～きれる」である。

韓国語の場合、「完了の可能」は「切断の可能」と同じく「～ㄴ(을) 수 있다 (없다)」と「못~, ~지 못하다」に訳されている。

(22) きみを待ちきれずに、もう少しで授業を始めるところだった。

(7-104)

(너를 기다리지 못하고 하마터면 수업을 시작할 뻔 했구나)

(23) いく十羽とも数えきれないつの群が、一かたまりにかたまって、

たかにむかって、死にものぐるいでとびかかります。(7-78)

(몇십마리인지 헤아릴 수 없는 학의 무리가 한 덩어리로  
뭉쳐 매를 향하여 필사적으로 달려듭니다)

韓国語の可能・不可能の表現には次の三種類がある。

- a. ~ㄴ(을) 줄 알다 (모르다)
- b. 못~, ~지 못하다
- c. ~ㄴ(을) 수 있다 (없다)

a. は普通「努力や学習を前提として可能・不可能を表すもので、例えば「～するすべややり方を知っている（知らない）」になる。「그는 주판을 놓을 줄 안다」は「(練習の結果)彼はそろばんを入れるすべを知っている」となり、「야구를 할 줄 모른다」は「野球のやり方を知らない」となる。

b. は多くの場合「基本的な能力を欠いて不可能である、あるいは他律的に不可能である」の意味になる。「눈이 많이 와서 오늘은 산에 올라가지 못한다」は「大雪のため山に行けない。天候を左右する能力は人間にはないものである」となり、「어렸을 때 물에 빠져서 아직도 헤엄치지 못한다」は「小さいころ水におぼれた苦しい経験があり、今もって泳ぐ能力を全く持っていない」となる。このように何らかの基本的な条件の欠落あるいは行為者の能力を超えたところに条件が付けられている場合、それが不可能であるという意味を表すのに「못하다」が用いられる。

a. と b. の可能・不可能は「どうしてそれが可能・不可能であるのか」を含んでいる表現であるが、c. は「どうして」を問わず単に事実として「できる・できない」を述べる表現である。例えば、「야구를 할 수 없다」は「どんな理由があるにせよとにかく現実として野球ができない」となる。

「～きれる」に対応する可能・不可能の表現は b. と c. で、「消極的な受動の動作」は「못하다」、「積極的な能動の動作」は「～수 있다(없다)」と言えるが、両方の表現とも「～きれる」を直訳した「～잘라지다, ~뚫어지다」では表せないものである。

以上の「～きれる」の「可能」の意味は、他の自動詞・他動詞のペアにはあまり見られないものである。西尾(1978)は、「折れる(折る)」「切れる(切る)」「抜ける(抜く)」などのような、五段活用の他動詞に対立する下一段活用の自動詞は、それ自体他動詞の可能形としての性質を持ち、可能を表す助動詞「られる」が付くことは起こりにくいと述べている。この場合の「ぬける」は無意志動詞の「ぬける」であって、「この道はあちらにぬ

けられますか」の「ぬける」のような意志動詞ではない。しかし、このようにそれ自体に可能の意味を持っているものの一つであると説明されている「～きれる」は、「～きれる」という肯定の形で可能の意味を表している例はほとんどない。

「～きれる」という肯定の形があまり用いられないことについて、姫野（1980）は、「～きる」という表現自体に可能の意味があるからであると述べている。つまり、「走りきった」という表現は、「完走することができた」という意味になる。このように、単純語の形態で用いられるときは「きれる」が可能の意味を表し、複合動詞の後項要素になると、「～きる」の方が可能の意味を表すようになる。このような意味で、「～きれる」は「～きる」に可能の表現をとられ、不可能の表現を表すようになるということである。一方、鈴木（1973）は、「～できる」ということは潜在的には「～できない」という意を想起するものであると述べている。また、姫野（1980）は、「～きれないほど」のように程度を強調する「ほど」を伴った表現が多いということから、「～きれない」は主体の遂行能力のなさを示すというよりは、ことが達成不可能なほどの状態だ、能力を超えるほどだという程度の強調を表すものであると述べている。

#### 4 終わりに

以上の「～きる」の「切断」「完了」「極度」の三つの分類は次のように要約することができる。

①の「切断」の「～きる」は (a)「実際に切断が起こる」と (b)「実際に切断が起こらない」に分けられる。(a)は具体的にものを切断することを表す。前項動詞は切断の方法・様相を表す。また、ある目的があって主体が切断を行うというニュアンスを帯びている。この種の「～きる」は、「～て切る」に言い換えられる。前項動詞には具体的な切断が可能なものが用いられる。(b)の場合は、(a)のような具体的な切断ではなく、抽象的な切断を表す。「～きれる」の形で、「切断するように～できる」の意味を表すこともある。前項動詞には、抽象的な切断が可能なものが用いられる。なお、可能動詞形

「～きれる」のほとんどは「～きれない、～きれず」の形で「切断するように～することができない」という不可能を表す。

②の「完了」の「～きる」はある基準まで残りなく全部行われるという意味を表す。①の(b)の「～きる」と同じく、「～きれない、～きれず」の形で、「～きる」の動作が終わりまで行われることが不可能であることを表す。

③の「極度」の「～きる」は自然現象や人間の心理・生理現象などのそれ以上進むことのできない極限の状態を表す。

「きる」の表す「切断」という意味は、「切り離す」ということである。「切り離す」は、一続きになっているものを二つ以上に別々に完全に分けるという意味を持っていることばである。このような理由から、「～きる」は「完全に」というニュアンスを帯びるようになる。

「～きれる」の形は、自動詞形の場合は具体的な切断が行われる例であるが、他の多くの場合は可能動詞形である。西尾(1978)のいう可能形の条件である「人間主体の意志的動作」ということから、「切断」と「完了」の場合は「～きれる」の形が成り立つが、「極度」の「～きれる」は成り立ちにくい。また、可能動詞形「～きれる」は「～きれない、～きれず」という形で、能力を超えるものだという程度の強めの表現としてよく用いられる。つまり、意志動詞の場合には「～きる」と可能動詞形「～きれる」の両形があり得るが、「わかる」「困る」「乾く」のような無意志動詞は可能動詞形「～きれる」は成立しにくい。

以上の「～きる」と対応する韓国語の表現とのかかわりあいは次のようにまとめられる。

「切断」の「～きる」は物理的な切断が起こる場合は「두들겨 자르다」のように「～자르다」になり、物理的な切断が起こらない抽象的・心理的な切断の場合は「잘라～」の形を取ったり、「딱」、「분명하게」、「힘껏, 있는 힘을 다해」などの副詞(句)と共起したり、あるいはその副詞(句)になったり、複合語全体が一つの動詞になったりする。自動詞形「～きれる」は「～끊어지다」の形で切断されている状態を表し、可能動詞形「～きれる」は「끊을 수 있다(없다)」の形で「～きる」の切断が

可能・不可能であることを表す。

「完了」の場合、「～きる」は「다」、「끝까지」のような副詞になり、前項動詞の動作が終わりまで行われることを表す。可能動詞形「～きれる」は、「～きれない、～きれず」の形で用いられるが、「消極的な受動の動作」は「못하다」、「積極的な能動の動作」は「～수 없다」の形で「～きる」の完了の不可能を表す。

「極度」の「～きる」は、「몹시」、「완전히」などの副詞の形で、ある現象がひどい状態あるいは極限の状態であることを表す。

つまり、「～きる」は切断、特に「物理的な切断」という基本的な意味が表れる語彙的な後項動詞の場合は「～자르다」、「～끊어지다」のように韓国語でも複合動詞の形になるが、「抽象的・心理的な切断」、「完了」、「極度」などのような単純語での語彙的な意味が薄れ文法が進んだ場合は、副詞(句)などの修飾語(句)あるいは前項動詞と「～きる」、「～きれる」の結合体全体が一つの動詞に訳される場合が多い。

### 【参考文献】

- 森田 良行(1978)「日本語の複合動詞について」『講座日本語教育』第14分冊、早稲田大学語学教育研究所  
(1977-a)「日本語の動詞について」『講座日本語教育』第13分冊、早稲田大学語学教育研究所  
(1977-b)『基礎日本語』1、角川書店
- 山梨 正明(1995)『認知文法論』ひつじ書房
- 武部 良明(1953)「複合動詞における補助動詞的要素について」『金田一博士古希記念言語民族論叢』三省堂
- 金田一京助(1949)『国語学入門』吉川弘文館
- 佐久間 鼎(1966)『現代日本語の表現と語法』厚生閣
- 林 和比古(1944)「補助用言とその派生問題について」『国語学論集』岩波書店
- 時枝 誠記(1950)『日本文法口語編』岩波書店

- 菅野 宏 (1964) 「接頭語・接尾語」『講座現代語』6、明治書院
- 姫野 昌子 (1980) 「複合動詞『～きる』と『～ぬく』『～とおす』」『日本語学校論集』7号、東京外国語大学付属日本語学校
- 藤井 正 (1976) 「『動詞+ている』の意味」『日本語動詞のアスペクト』  
むぎ書房
- 高橋太郎、松本泰丈、鈴木泰、金田章宏講義テキスト (1993)  
『日本語の文法』
- 西尾 寅弥 (1978) 「自動詞と他動詞における意味・用法の対応について」  
『国語と国文学』1978年5月号
- 鈴木丹士郎 (1973) 「動詞の問題点」『品詞別日本文法講座・動詞』明治書院